

平成27年度 学校自己評価表 ( 計画段階 ・ 実施段階 )

学校運営計画				評価								
学校運営方針		志をもって意欲的に学び、自律心と思いやりの心をもつ、たくましく生き抜く生徒の育成を図ることを教育活動の基本とする。		B								
昨年度の成果と課題		本年度重点目標	具体的目標			B						
<p>組織的・計画的指導により一定の成果がみられた。上級学校進学を企図し、また、各分掌が到達目標を明示し、実効性のある教育活動を展開できた。</p> <p>昨年度の検証・点検を受け、本年度より部課長制の新たな運営組織のもと、部長・課長を核とした系統的・組織的な校務運営を図ることで、統一的でありながらも実効性と継続性を持つ教育活動を展開し、教師力向上を図ることが期待できる。このことによって、保護者や地域社会に信頼される学校づくりを推進することが可能となる。</p>		学力の向上に努め、自主的な学習態度を育成する。	授業時数の確保及びアクティブラーニング推進を踏まえた ICT 機器の活用など指導方法の創意工夫に努めることにより学力向上を図り、進学体制のより一層の充実のために1年次における特進クラスの設置、2年次よりの希望進路に応じた類型の設置及び授業改善研修の活性化による教科指導力の向上を目指す。					B				
		部課長制の運営組織に基づく系統的組織的な校務運営の充実を図る。	校務の統一性を図るとともに、実効性と継続性のある組織の構築を行うことで、迅速で的確な分析をもとにした教育活動の実践と改善を目指す。							B		
		進路目標達成に向けての指導体制の強化と指導内容・方法の改善・充実に努める。	進路意識の早期確立と意欲の向上を図るとともに、長期休業中における集団学習会、進学セミナーの実施等、進路目標達成のために効果的な課外授業を実践する。									B
		創立110周年記念行事をはじめとした学校行事に主体的に取り組む態度を育成する。	生徒会を中心に据え生徒を主体とした周年行事、学校行事の充実に取り組む。	B								
		人権・同和教育を推進すると共に学校の教育活動全体を通じて道徳教育の充実を図る。	いじめ、暴力、差別は絶対に許さない心の教育・人権意識と人間尊重の精神を涵養する。			B						
部分掌・学年	評価項目	具体的目標	具体的方策					評価				
教務課	・自宅学習時間 (1日平均) 1年：120分 2年：140分 3年：160分  ・出席率 1年：99.5% 2年：99.0% 3年：99.0% 全体：99.2%	・教科指導の充実と学力の向上を目指す。  ・授業規律の確立に努める。	1 学年特別進学クラスにおいて、顕著な学力の伸長を達成するために、より効果的な教育活動を展開する。					B	A	・不登校および欠席がちな生徒の情報の交換・共有を行い、組織的な取組をする。 ・観点別評価方法を具体化していく。 ・特進クラスの特色化を推進する。 ・大学入試改革に対応した授業を構築する。 ・更なる授業規律の確立を目指す。 ・ライフレポートの活用について具体例を挙げながら共通認識の下、全体で取り組むことで、学習・生活指導の充実を図り、自宅学習時間の伸長および学力向上を目指す。 ・業務をより円滑に行えるように、職員の声に応え、改善に積極的に取り組む。		
			進路部と連携し、2 学年及び3 学年において進路希望に応じた類型を設置し、より一層の学習効果を図る。					A				
			生徒、教員ともにチャイム席を遵守し、授業時間の確保に努める。	A								
	・出席率の向上に努める。	教室の環境を整え、緊張感のある授業を展開する。	A	A								
		学習・生活指導の充実を図るために、ライフレポートの効果的活用に努める。	B									
		出席統計と学習時間の統計を毎月提示し、効果的活用に努める。	C									
部企画・広報課	・校内の円滑な行事運営に努める。	・各部、各課と連携し、校内の円滑な行事の運営に努める。	行事・儀式等の円滑な運営のための企画・立案と各部との調整に努める。	A	A	・行事や儀式等が円滑に実施できるよう各部・各課と連携し、調整を行う。  ・PTA総会の保護者向け案内を始業式・入学式に配布する。また保護者講演会やPTA総会の参加の増加を目指す。  ・月間行事予定を各部・各課との調整を行い、早期配布に努める。						
			月の行事予定表(細目)を毎月前月の中旬までに配付し、各行事の周知徹底を図る。	B								
	・PTA活動の活性化を図る。	・PTA活動を推進し、学校と家庭との相互理解を深める。	PTAとの連携を強化し、適切な運営とPTA活動の活性化に努める。	B								
			学校要覧、学校案内等の内容の充実を図り、効果的な広報活動を推進する。	A								

部分掌・学年	評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度の主な課題					
生徒	指導課	1. 基本的生活習慣 ア 課外出席率 <u>98.0%</u> イ 授業出席率 <u>99.2%</u> 2. PTA合同「挨拶運動」 各学期毎3日間実施 3. 部活動目標 ア 加入率 <u>85%</u> イ 県大会 運動部 15 文化部 4 ウ 九州 3 エ 全国 1(以上延べ)	・基本的生活習慣の確立 校則・マナーの遵守	社会規範・校則遵守の精神の涵養と自己指導能力の育成に努める。 「学校いじめ防止基本方針」を策定するとともに、「いじめ防止・撲滅」に対する全職員・生徒の意識の高揚を図り、「いじめの早期発見・早期対応」体制の整備・充実に努める。 生活指導の徹底を図り、校則違反や特別指導の減少に努める。	A	A	・入学生徒の変化に対応できるように各分掌や学年と連携を深め、未然防止に努める。 ・毎月のいじめアンケートが形骸化しないように工夫して取り組む。 ・本年度始めた「立ち止まり札」等、身につけたことを継続するように徹底する。 ・自転車免許制度を取り入れ、交通安全への意識を高めたが、事故0を目指し更なる安全教育を行なう。 ・部活動集会等を行い、部活動だけではなく学校行事の中心となりえるように意識を高めさせる。				
			・愛校心、帰属意識を高める	職員、生徒、保護者が一体となって「挨拶運動」の取組を推進する。 学校行事のより一層の内容の充実に努めるとともに、学校行事を通じて本校に対する帰属意識を育成し、110周年記念行事の成功につなげる。 挨拶、ボランティア、学校生活等の活動において、生徒会執行部及び部活動所属生徒の果たすべき役割を明確にし、活動の活性化を図る。 部活動成績の掲示により、加入率、活動意欲の向上を図り、部活動の活性化を図る。	B B A A						
			保健安全課	・生徒及び職員の心身の健康維持増進を図る。 ・校内施設の安全管理と校内美化活動の推進 ・生徒情報の把握と円滑な生徒支援	・保健室利用者数の把握			保健室利用状況を関係職員で情報共有し、生徒の心身の健康維持増進に役立てる。必要に応じて、専門医との連携をとる。	A	A	・保健室の利用状況を担任、学年に速やかに連絡し、連携を深める。生徒が心身ともに充実した学校生活を送れるよう生徒支援を推進する。 ・大掃除での強化ポイントを示し、取り組む。掃除監督の徹底と委員会活動を通して、環境美化に努める。掃除用具の点検など美化委員会を機能させ活性化を図る。 ・施設、用具等を大切に扱うよう注意喚起を行う。 ・特別支援チームのシステムを明確化し、迅速に情報を把握し、生徒支援に繋げる。
					・保健だより定期的発行			保健だよりを毎学期1回発行。生徒委員会活動を活性化させる。	A		
					・事務室と連携し校内施設の安全管理に努める。 ・美化意識の高揚に努める。ゴミ処理、減量の改善立案。施設の安全改修に努める。			月1回の大掃除を充実させる。大掃除は総合学習に位置づけられていることを確認し、美化意識高揚のための事業をより浸透させる。 職員は日常的に掃除監督の徹底を図る。 ごみ減量と、清掃に関わる経費の削減を目指す。	B B B		
					・教育相談活動を積極的に進める。生徒支援活動をより拡張して推進する。			生徒支援に関わる情報を学年会議、職員会議、生徒特別支援チーム等を通して情報を共有、協議し、より良い生徒支援につなげる。 保護者、専門機関との連携を推進し、生徒支援を充実させる。	B B		
	進路課	・一学年(1月進研) 総合3教科 50.0 ・二学年(1月進研) 総合3教科 48.0 文系3教科 49.5 理系3教科 47.5 ・三学年(進学結果) 国公立大80人以上 (AO・推薦50人以上) (一般合格30人以上) センター受験率 80% (二次受験 65%) 四年制大進学率 65%			・教科指導体制の確立 進路実現への実力養成を目的とした教科指導計画の作成とその実践	センター試験まで全員、理系5教科7科目、文系6教科7科目・3教科4科目による教科指導を継続する。 外部模試・実力考査の成績上位者を掲示し、進路意識の高揚と学習意欲の向上を目指す。 長期休業中の課外及び土曜講座の年間実施日数は長期休業中課外(25日～28日間)、土曜講座(月2回程度)を確保する。 夏季・秋季・冬季休業中にキャリア教育・集団学習会を実施し、進路意識の高揚と学習指導の充実による学力向上に取り組む。 課外、土曜講座の出欠統計の上位クラスを毎月5日までに掲示し、出席率の向上を図る。	B B A A A	A	・希望進路達成100%を目指す。そのために文系・理系とも5教科の実力養成と、より広い視野による進路目標の設定を目指す。 ・進路結果などの進路情報の公開は生徒の学習に対する意識向上に貢献した。 ・課外及び土曜講座については予定通り実施された。来年度はさらなる充実を目指す。		
					・進学体制の確立 3年間を通じた進学指導を実践し、四年制大学進学率65%の達成	大学、企業、地域との連携によるキャリア教育を1学年5回、2学年3回、3学年3回を実施する。 2・3学年保護者対象の進路説明会を実施し、生徒の進路実現に向けての支援体制を整備する。	A B				
			・進路意識の確立 生徒・保護者・教員の共通認識による、適正な進路希望の確立	・ホームページを月1回以上の頻度で更新する。 ・年間2回以上の情報研修会を実施する。 ・学期に1度は情報機器の点検を実施する。	ホームページの更新を月に1回は行い、保護者・地域・同窓会・中学生への情報公開を活性化する。 職員のニーズや県の取組みに合わせた内容の職員情報研修会を企画し、実施する。年間2回以上の実施を目指す。 情報機器の点検を学期に1回は実施し、管理を徹底する。また、ICT環境のより一層の充実を目指す。	A B A					
			・年間読書数 6,000冊	読書数増加に向けて具体策を講じ、数値目標の達成に努める。	C						
			情報課	・ホームページ更新 ・職員研修 ・情報機器の点検 ・図書館の活性化	・年間読書数 6,000冊	読書数増加に向けて具体策を講じ、数値目標の達成に努める。	C			B	・ホームページの更新頻度は継続し、内容の充実を図る。 ・職員研修の回数について目標値を再検討する。 ・情報機器の管理体制の構築だけでなく、ICT環境充実に向けて関係部署と連携する。 ・図書館の利活用を促進させる取り組みを検討する。

部分掌・学年		評価項目	具体的目標	具体的方策	評価			次年度の主な課題		
進路部	支援課	・支援が特に必要な生徒の修学保障と進路保障を図る。	・年間2回の中高交流会の参加、必要に応じた家庭訪問の実施	経済的に厳しい家庭や個別な教育的課題を抱えた生徒等を支援し、修学・進路保障を図る。	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済的に厳しい家庭、課題を抱えた生徒に対して充実した支援を行う。</li> <li>・就学支援金・給付金制度の活用を事務室と連携して取り組む。</li> <li>・校内の各分掌、校外の関係機関または中学校等と更なる連携を図り、生徒の修学、進路保障に取り組む。</li> <li>・奨学金の活用を返還から考えさせ、有効な活用の意識を持たせていく。また給付型の奨学金を開拓していき、生徒に案内する。</li> </ul>		
		・就学・就労保障のための支援体制の構築を図る。	・年間10回開催される高同推進路担当者会の参加	高進協、進保協、職安との連携を通じて適正な選考が行われるように取り組む。	A					
		・支援金、奨学金等の案内を通じて、生徒の進路の支援につなげる。	・より多くの経済的支援制度の紹介	日本学生支援機構をはじめとした奨学金の確かな情報を伝え、その活用方法を進路保障のため生徒に理解させる。また支援金や給付金について事務室と連携して取り組む。	A					
学年部	一学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率 授業出席率 99.5%</li> <li>・課外出席率 98.5%</li> <li>・家庭学習時間 1日平均 120分以上</li> <li>・1月進研模試 3教科偏差値 50以上</li> </ul>	・基本的生活習慣の確立	挨拶の励行、適切な言葉遣いの指導、校歌指導等の徹底。 学年行事（自立と協働を学ぶ体験活動）を効果的に活用し、集団生活を通して社会性を養う。	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的生活習慣の確立や授業規律の確立については、学年全体では概ね目標地点に到達していると考えられるが、個々人のレベルで目標達成できていない生徒への指導を強化していかなければならない。</li> <li>・進路目標の設定については、進路目標の設定ができていない生徒が早期に目標設定できるようサポートしていかなければならない。</li> </ul>		
			・授業規律の確立と基礎学力の定着	チャイムからチャイムまでの授業を実施することで、授業規律を確立するとともに、小テストや週テスト、課外授業やそれらの事後指導を有効活用する。	A					
			・将来を見据えた進路目標の設定・進路選択	進路部と連携を図り、進路意識の高揚と早期進路目標の確立に努める。	B					
			・人権意識の高揚	教育活動全般を通じて人権意識の高揚につとめる。	B					
			・出席率 授業出席率 99.0%	・基本的生活習慣の確立	中核学年として下級生の模範となる良識のある言動を身に付け、上級生を支えながら110周年の行事を成功へと導き、南高の新しい伝統を築いていくことができる集団作りを目指す。				A	
			・家庭学習時間 1日平均140分	・授業規律の確立と学力の向上	正課授業・課外授業を充実させ、落ち着いた学校生活を送りながら学力の向上を図る。				B	
	二学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1月進研模試 総合3教科48.0</li> <li>・文系3教科49.5</li> <li>・理系3教科47.5</li> </ul>	・将来を見据えた進路目標の設定・進路選択	キャリア教育課と連携し、進路意識の高揚に繋がる仕掛けを引き続き実施する。	B					
			・小倉南高生としての自覚と人権意識の高揚	教育活動全般を通じて人権意識の高揚に努める。	B					
			三学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習(1日)160分</li> <li>・出席率目標99.0%</li> <li>・国公立大学80人以上 (A0・推薦50人以上)</li> <li>・(一般合格30人以上)</li> <li>・センター受験80% (うち二次受験65%)</li> <li>・四年制大進学率 65%</li> </ul>	・進路目標達成を目指した教育活動の実践	個別面談を適宜実施すると共に、キャリア教育課と連携を密にし、生徒一人一人の進路目標実現のため、学年が協力して全力を尽くす。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最後まであきらめず進路に向かって頑張る生徒を育てていくことが大切であるとする。</li> <li>・そして目標を達成するには努力する他はないと言うことを様々な場面で指導する。</li> <li>・卒業してからも、これまでの先輩の流れを引き継ぎ、職業講演会や進路講演会などでアドバイスする機会を作りたい。</li> </ul>
					・創立110周年に関わる行事の成功	リーダーを中心とした組織作りを心がけ、体育大会や定期野球大会、記念式典など110周年の節目となる行事を成功させる。	B			
					・様々な場面における他学年との連携の強化	行事での連携はもとより、行事を経験した先輩から後輩へ話をする機会を増やすなど、小倉南高校の伝統を継承していく。	A			
					・小倉南高校生の自覚と人権意識の高揚	最上級生として校訓「自主・創造・親愛」の精神を自覚させると同時に、他者への思いやりを育み、卒業後社会で通用する人権意識を養う。	B			
英語コース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次までに英検準2級全員取得</li> <li>・英検2級</li> <li>・卒業まで7割合格</li> <li>・GTEC GRADE 5 7割以上</li> <li>・国公立合格者 6割以上</li> </ul>	・4技能をバランスよく身につけた英語力の伸長	1年次においては文系特進クラスとして位置付け、特に少人数授業や専門科目授業を通して英語力伸長を図る。 英検やGTEC、TOEICなどの資格試験を積極的に受検させ、合格者数増加を英語運用力向上の原動力とする。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度より英語コースは募集停止となるが、在校生に対する専門科目授業や英語研修のより一層の充実に努めたい。</li> <li>・実践的英語力の重要性を再認識し、その伸長を図りながら、その結果がGTECや英検、大学入試にも反映できるように、更に授業を創意、工夫していく。</li> </ul>			
		・自国文化を再認識し異文化を理解する態度の育成	専門科目授業の充実、大学での宿泊研修、JICAでの国際理解研修等、英語コースとしての特色ある教育活動を展開する。	A						
		・国際社会においてたくましく生き、活躍できる人材の育成	英語コースの活動が発表できる場を設ける。また、それを活用して中学校等へのコースの広報活動を強化する。	B						
			他校の英語科・英語コース等の優れた実践を学ぶために、教員が積極的に学校訪問を行う。	B						
				B						
				B						